
夜行列車「ヒンダカ」が通る

天月黎璽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜行列車「ヒンダカ」が通る

【Nコード】

N1114P

【作者名】

天月黎璽

【あらすじ】

あなたの家も通っているかもしれない

夜中の三時を廻ると、「ヒンダカ」というのが現れるそうだ。私は見たことがないし、見えないのかもしれない。ただ、どこからか「あつ、ヒンダカ」と、幼い子供の声がするのだ。それは窓の側からはつきりと聞こえる。もしかしたら、この声の主こそ「ヒンダカ」なのかもしれない。いずれにせよ、その姿はまだ二つのレンズに収めていない。なに、ネタを明かせば、恐くて目を開けることが出来ないのだ。しばらく経ってから、恐る恐る声のした方へと視線をやるのだが、そこには何も無い。

子供の台詞から、いつもいつでもそこに居るわけではないのだろう。その時刻になるとそこに現れ、あるいは通るのであるうか。だとしたら、まるで列車である。ビクビクしている私を尻目に、物音立てず、一つと、通り過ぎてゆくおばけ列車。子供にしか見えず、その子供もこれまたオバケかもしれないとなれば、いよいよ我が家はおばけ屋敷の仲間入りというわけだ。

奇怪な夜行列車ヒンダカ、天月家を通る。と、いったところでおしまいとする。

ああ、ほんと、めでたい頭だなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1114p/>

夜行列車「ヒンダカ」が通る

2010年11月24日16時15分発行